

## 第5学年 社会科学習指導案

鯖江市片上小学校

### 1 単元名 わたしたちの生活と食料生産 米づくりのさかんな地域

#### 2 単元の目標

- 我が国の米の生産が自然環境と深いかわりをもって営まれていることや、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きについて理解することができる。 (知識・理解)
- 我が国の米の生産は国民の食料確保の重要な役割を果たしていることや、国民生活を支える米の生産の発展について考えたことを適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)
- 地図や統計、新聞などの資料を活用したり、インタビューなどを行ったりして必要な情報を集め、まとめることができる。 (技能)
- 我が国の米の生産に関心をもち、その様子から学習問題をつくって意欲的に調べたり、国民生活を支える米の生産の発展について考えたりしている。 (関心・意欲・態度)

#### 3 単元について

この単元は、米づくりのさかんな地域において、米づくりに従事している人々が、(ア) 自然環境を生かしたり、(イ) 品種改良や生産の効率を高めるための技術の改良を進めたり、(ウ) 味の向上や食の安全確保に努めながら生産や出荷、販売を工夫したりしていること、などを問題解決的に学習するものである。この学習を通じて、児童に、我が国の米の生産が国民の食料確保の重要な役割を果たしていることを理解させ、国民生活を支える米の生産の発展について考えさせることをねらいとしている。

教科書では、日本有数の米づくりのさかんな地域である山形県庄内平野を取り上げ、写真や地図、イラストやグラフなどを活用しながら知識を効果的に獲得できるように構成されている。しかし、問題解決学習において、児童に紙面での学習だけで米づくりに関わる人々の生の声や人々の工夫・努力について、切実感をもって学習させることは難しい。

そこで、単元に福井県の内容を盛り込み、単元の学習計画を構成した。具体的には、上記(イ)と(ウ)について、副教材として「自然と生命を守るふくい農林水産業」や、資料「農業とわたしたちの暮らし」(JAバンク発行)を取り扱い、福井県の米づくりの実態を明確につかませることにした。また、校外学習として「福井県農業試験場」に出向き、見学やインタビューなどを通して、米の品種改良の現場や福井米の歴史など「米づくり」の見えない部分を明らかにしながら学習をすすめることにした。県では先ごろ、「コシヒカリ」に代わる新ブランド米「いちほまれ」が立ち上げられ、官民一体となってそのブランド化やPRがすすめられている。「いちほまれ」の開発にはどのような苦労があったのか、今なぜブランド化を推しすすめる必要があるのか、などについて考えさせることは、本単元のねらいにそうものと考えている。

単元末では、「ポストコシヒカリ」＝「いちほまれ」の開発努力やその意義を学ぶことを通じて、福井県の米づくりに関わる人々の願いを知ると共に、その背景にある日本の農家がかかえる問題点(消費量の減少、後継者不足など)にふれ、考えさせていきたい。

#### 4 指導について

本単元は、基本的に、グループ毎にテーマを設け、調べ活動や発表活動を軸にした問題解決型の学習を行う。その中で、①福井県の米づくりの実態について具体的で身近な資料を取り扱うこと。②「米づくり」の見えない部分を見えるようにするために校外学習(県農業試験場)を行い単元学習に関連づけること。③新聞を効果的に活用したり、新聞制作をしたりして、新聞に親し

むこと。これら3点を指導の手立てとしたい。

第一次は、米づくりのさかんな山形県庄内平野の写真や地図、資料をきっかけにして、学習問題「考えよう 福井の米づくり。米づくりのさかんな庄内平野と比較して」をかかげ、学習計画をたてる。第二次は、「米づくりのひみつをさぐる」として、福井の米づくりについてグループ毎テーマ別に調べ活動と発表活動を行う。その際、庄内平野と比較しながら学習をすすめていく。第三次は、福井県の新ブランド米「いちほまれ」をキーワードにした新聞づくりを行って学習のまとめとする。

特に、第二次では、テーマ別に児童のグループによる「福井の米づくり」についての発表と、「庄内平野の米づくり」についての学習を平行して行い、両者を比較しながら授業をすすめていく。庄内平野と同様に米づくりのさかんな地元、福井について学ぶことで、児童にとって学習内容をより身近なものにさせたい。また、第三次「新聞にまとめよう」では、学習のまとめとして新聞づくりを取り入れる。本校は、N I E実践指定の2年目となる。これまで、学習や生活のいろいろな場面で新聞を活用してきた。ここでは、「いちほまれ」をキーワードとし、校外学習での取材を基にして新聞づくりを行う。

本時、単元の第7時「農家を支える人々」では、校外学習の経験を生かして「県農業試験場」について取り上げ、当該施設の役割やそこに働く人々の願いについて考える。そして、新ブランド米「いちほまれ」について、「県農業試験場 ポストコシヒカリ開発部」の方をゲストティーチャーに招いて話をお聞きする。品種改良の目的と背景、販売戦略等について知る中で、米づくりにたずさわる人々の願いや福井県の稲作農家がかかえる問題点についてふれていきたい。

5 単元の流れと評価の計画（全9時間 本時7／9）

時間	学 習 活 動	評価の観点				評価の規準（評価の方法）
		関・意・態	思・判・表	技 能	知識・理解	
第一 次	1  <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	○	○			・庄内平野の米づくりの様子を表す資料から読み取ったことをきっかけに、福井の米づくりについて関心をもち、学習問題をつくって意欲的に調べようとしている。（観察）
	第二 次	2  ○米づくりのひみつを探ろう ・グループ毎テーマ別に、福井県の米づくりについて調べる。	○		○	
3  ・グループ毎テーマ別に、福井県の米づくりについて調べたことを発表する。 ・写真や地図、資料などから庄内平野の米づくりについて読み取り、福井県と比較して考え、話し合う。						・福井県の米づくりについて、グループ毎テーマ別に調べたことを発表することができる。  （発表・観察） ・グループの発表を聞き、福井県の米づくりの実態をつかんでいる。（観察）
6  ① 米づくりにあった自然条件 ② 農家の人の努力 ③ 地域の人々の協力 ④ 保管や運輸の方法		○	○		○	・庄内平野の米づくりについて、写真や地図、資料などから読み取り、そのさかんな理由について考えることができる。（観察・ノート）
7 (本時)  ・⑤農家を支える「福井県農業試験場」の仕事を取り上げ、「コシヒカリ」の品種改良の様子やそこに働く人々の思いについてまとめる。 ・新ブランド米「いちほまれ」にこめられた、福井県の米づくりに関わる人々の願いについて考える。						・農業試験場での品種改良やそこに働く人々の思いについてまとめることができる。  （観察・ワークシート） ・ゲストティーチャーの話から、新ブランド米「いちほまれ」にこめられた、米づくりに関わる人々の願いについて考えることができる。  （観察・ワークシート）
第三 次	8・9  ○新聞にまとめよう ・農家のかかえる問題点をつかみ、これからの福井の米づくりについて考え、新聞にまとめる。		○		○	・農家のかかえる問題点やこれからの米づくりについて自分の考えを話し合う。（観察） ・学習のまとめとして、福井県の新ブランド米「いちほまれ」を中心に上げた個人新聞を書く。  （新聞）

6 本時の学習

(1) 目標

○新ブランド米「いちほまれ」開発の苦労や今後の販売計画を知り、「いちほまれ」には米づくりに関わる人々のどのような願いがこめられているかについて考えることができる。

(思考・判断・表現)

○「コシヒカリ」の品種改良を例に、福井県農業試験場がどのようにして米づくりの農家を支えてきたかについて話し合い、その役割やそこに働く人々の思いを理解することができる。

(知識・理解)

(2) 準備物 大型TV, ワークシート

(3) 学習の展開

	学習活動と予想される児童の反応 (◎本時のねらいを達成するための授業の山場)	教師の支援(・)と評価(※) ユニバーサルデザインの視点(下線)
つかむ	<p>○前時までの学習をふりかえる。</p> <p>○本日の学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習した新聞記事を提示することで、学習のめあてをつかみやすくさせる。</li> <li>・本時の流れを提示して学習に見通しをもたせるようにする。</li> </ul>
追究する	<p>○県農業試験場の役割について、校外学習で学んだことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品種改良する。</li> <li>・米をおいしくする。</li> <li>・ブランド米開発。</li> <li>・米が売れるように。</li> </ul> <p>○「コシヒカリ」の品種改良の例から、県農業試験場の役割とそこに働く人々の思いについて話し合う。</p> <p>◎「いちほまれ」について、県農業試験場の方から話を聞き、質問する。</p> <p>A 「いちほまれ」の開発の苦労について</p> <p>B 今後の販売計画について</p> <p>C 「いちほまれ」にこめられた願い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いちほまれ」の系譜は？</li> <li>・私たちはどうしたら食べられるの？</li> <li>・「いちほまれ」って高いの？</li> <li>・今なぜ新ブランド米が必要ななの？</li> <li>・福井の米づくりはどうかになるといいの？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習での写真を大型TV等で提示し、県農業試験場の仕事についてふりかえらせ、それが、福井の米づくりにどのような影響を与えているかを考えさせたい。</li> <li>・福井発祥の品種「コシヒカリ」を例に取り上げ、県農業試験場の役割と、石墨慶一郎博士がどのような思いをもって品種改良を成し遂げたのか考えさせたい。</li> <li>※石墨慶一郎博士の研究から、県農業試験場の役割や品種改良にかける思いについて理解している。(観察)</li> <li>・A～Cについて話を聞き、「いちほまれ」の開発・販売には、農家や農家を支える人々、および米づくりに関わる人々の協力が必要であることをつかませ、「いちほまれ」開発にこめられた人々の願いについて考えさせたい。</li> <li>・話のポイントを板書して、要点を聞き漏らさないようにさせる。</li> <li>※「いちほまれ」には、米づくりに関わる人々のどのような願いがこめられているかについて考えている。(観察, ワークシート)</li> </ul>

つなげる	<p>○今なぜ「いちほまれ」を開発・販売するのかについて考えることで、現在の米づくり農家がかかえる問題点に気づく。</p> <p>○次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いちほまれ」を開発・販売する一方で米づくり農家がかかえる問題点(消費量の減少や後継者不足)があることに気づかせたい。</li> <li>・次時は農家がかかえる問題点をとらえ、新聞にまとめることを知らせる。</li> </ul>
------	---	--

#### 7 授業の観点

ゲストティーチャーの話の聞いたり質問したりしたことは、「いちほまれ」にこめられている人々の願いについて考える上で効果的であったか。

#### 8 反省

#### 9 ご高評

本単元における知識の構造化



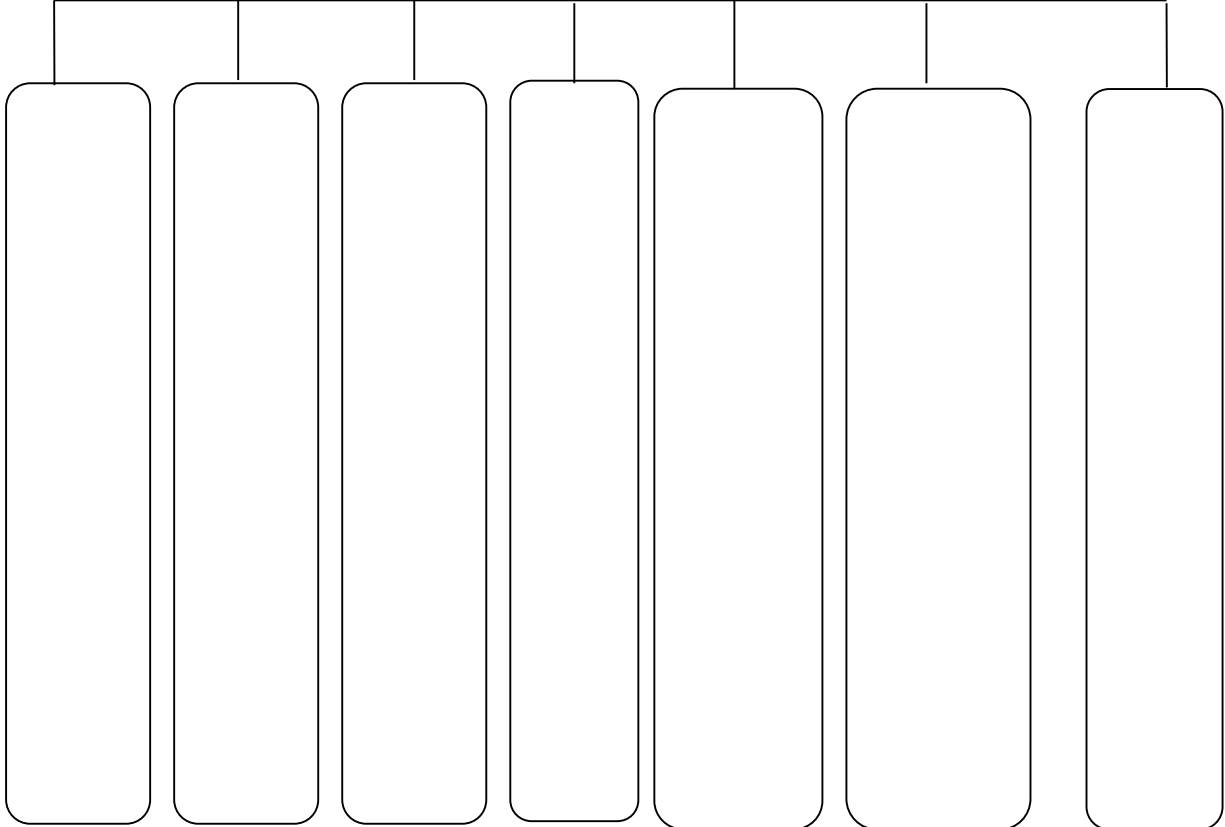
単元計画

第一次 → 第二次

→ 第三次



庄内平野（山形県）



時数 ① ②

③

④

⑤

⑥

⑦本時

⑧ ⑨

福井平野（福井県）

